

「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

富谷市立富ヶ丘小学校

I 学校所在地域の災害特性及び地域連携に係る現状等

(1) 学校所在地域の災害特性

① 自然的条件

段丘地を切り土や盛り土により造成した地盤（地質は偽層砂岩・礫質砂岩。仙台泉区との境界部は凝灰質シルト岩及び凝灰岩）である。また、市内に断層は認められない。6月～9月は梅雨及び台風が接近する季節となるため、月間降水量が120mmを超えることもある。特に9月は200mm前後の降水量が見られ、この時期は特に雨が浸透し地盤が弱くなることが予想されるため、注意が必要である。



② 災害特性

本校東側に隣接する水道局用地（仙台市水道局管財課）のり面と本校敷地の一部は、それぞれ土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に指定されている。加えて、富ヶ丘三丁目・鷹乃杜三丁目・鷹乃杜四丁目に、土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域がある。

(2) 地域連携に係る現状

富谷市では、毎年10月後半の日曜日に、「富谷市総合防災訓練」を行っており、市内全町内会が参加している。訓練内容は、各町内会計画による安否確認や災害状況を災害対策本部へ画像送信する「共通訓練（全町内会対象）」と、富谷スポーツセンターにおいて避難所開設や要配慮者の避難誘導訓練等を行う「エリア訓練（抽出町内会）」である。（今年度は衆議院選挙のため中止）

本校学区内の4地区（富ヶ丘南部地区、富ヶ丘北部地区、鷹乃杜地区、上桜木地区）のうち、2地区（富ヶ丘南部地区、上桜木地区）は、市総合防災訓練の共通訓練を終えた後、独自の計画で指定避難所である本校体育館を使用して、二次避難を想定した避難民受入訓練等を行っている。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

(1) 利府支援学校富谷校との合同引き渡し訓練の実施（来校：地区町内会長）

校舎を共同で使用している利府支援学校富谷校と合同で引き渡し訓練を行った。本校学区内の町内会長に案内を出し、視察していただいた。また、実施後の振り返りでは、来校者から見た引き渡し訓練の感想や今後に向けた改善点等を話し合った。

(2) 市総合防災訓練への児童参加

毎年、富谷市総合防災訓練において、富谷市内各地区が安否確認や防災訓練等を行ってきた。昨年度から、本校児童も各地区の一次避難所への避難を保護者と共に行い、自らの一次避難所に実際に足を運ぶ訓練を行った。また、各地区の進行により、バケツリレーやα米の炊き出し訓練、マイタイムラインの作成と防災かるた等の防災活動に取り組む予定だったが、今年度は衆議院選挙のため中止となった。



2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 校内職員研修会の開催（地区町内会長参加）

上述の引き渡し訓練後には、町内会長も参加し、該当地域の災害特性について教職員と地域で情報を共有することができた。

(2) 学校防災アドバイザーとの連携

学校職員、地区町内会長、富谷市防災安全課職員と一緒に学校防災アドバイザーと意見交換や情報共有をすることができた。年度初めにできたことは今年度の連携において大きかった。



3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

(1) 防災マニュアルの読み合わせ

4月当初の職員会議終了後、全教職員で防災マニュアルの読み合わせを行った。特に、利府支援学校富谷校との合同引き渡し訓練や地震・火災発生時の避難経路と避難方法について、詳細を確認することができた。

(2) 学区内危険箇所現場確認

「富谷市 洪水・土砂災害 ハザードマップ」を活用し、本校学区内の災害危険箇所を全員で確認した。土砂災害に指定されている場所が数か所存在し、現場を実際に見ることで、のり面の傾斜の具合や、その他安全面で児童に注意喚起が必要な場所も確認することができた。



(3) 震災遺構石巻市大川小学校視察（7月30日）

全教職員で震災遺構石巻市立大川小学校を視察した。東日本大震災発生当時の保護者であり、語り部の方に地震発生からこの場で何があったのか、親としての苦悩、避難の仕方について、そして常日頃から大切にしておくべきことなどを丁寧にご教授いただいた。全職員で現場を見ることがや親の思い、子供たちがこの場にいた痕跡など知ることで、防災に対する思いを深めた。



4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

(1) 震災遺構石巻市立門脇小学校訪問（6月14日・5年生）

5年生は震災後に生まれた児童であり、保護者や教師から東日本大震災のことを聞いたり、テレビ等で映像を見たりしてはいるが、経験はしていない世代である。実際の現場や語り部から実際の話を聞いて学ぶことは大きいと考え、本見学を計画・実施した。



(2) 震災復興の町女川町を視察訪問（6月28日・6年生）

昨年度の6年生は、校外学習として仙台市立荒浜小学校を訪問し、震災による学校の被災の様子や子供たちの様子を学んだ。今年度の6年生は、震災で被害のあった町の復興の様子を視察するために、女川町を訪問した。町の復興を実際の場所で感じて学ぶことは大切であると考え、本見学を計画・実施した。

下記は6年生の感想から抜粋したものである。

- ・クラスの友達は何人も亡くなるなんて想像できないし信じられないと話を聞いて思った。
- ・家がそのまま流される映像は衝撃的だった。自分の家や家族が流されたらと思うと心が苦しくなった。
- ・あの震災の映像からは想像できないような美しい女川町の景観にびっくりした。海や産業も大切にしていることが分かった。



(3) カリキュラム・マネジメントによる防災教育の実践

- ① 1年生（学活）：「ひなんのしかた」…下校途中に大きな地震が起きたら、どうすればいいのかを考え、地区によって避難先が決まっていることを学んだ。
- ② 2年生（生活）：「もっと なかよし まちたんけん」…地震が発生した際に身を守る方法を話し合い、地域には安全を守ってくれる場所や人々がいることに気付いた。
- ③ 3年生（総合）：「こんなときどうする？」…学校や家以外で地震が発生した時、どのように避難すればいいのか、そして自分たちには何ができるかを考えた。

- ④ 4年生（総合）：「土砂崩れの模擬実験」…理科「流れる水の働き」の学習の発展学習として、行った。土砂崩れが起こる際の予兆等を児童が実験を通して学んだ。
- ⑤ 5年生（総合）：「わたしたちにできること」…避難する際に気を付けた方がよいことを話し合い、逃げ地図を作り、自分の避難経路を考えることができた。
- ⑥ 6年生（総合）：「非常持ち出し袋ある？」…袋の中身について考えた。児童は各自の考えを共有した上で、自分たちが実際に避難生活を送ることを想定しながら真剣に取り組むことができた。
- ⑦ 特別支援（生単）：「あんしんライトをつくろう」…災害の時に停電になることがあることを知り、防災グッズを作ることで災害に備える力を身に付けた。

（4）防災発表会（12月6日…3～6年生）

12月の学習参観日には、児童がこれまでの学びを保護者やゲストティーチャー、地域住民、市教育委員会等に対して発表する「防災発表会」を行った。自分たちの学びを整理し、来校者と共有することで、災害や防災に関する理解を深めたと同時に、表現力を育成することができた。

（5）業前時間の防災タイムと業間時間の地震想定訓練

本校では、以前から毎月一回、業前時間に「防災タイム」を設定し、季節や今日的課題、世間の事件等に合わせた防災・防犯教育を行ってきた。昨年度からは毎月の計画を立て、災害のみならず、不審者対応等も含めた指導を行った。

また、昨年度からの試みとして、業間時間中の地震想定訓練を行った。児童が遊んでいる最中に緊急地震速報が発報する想定で行い、校庭で遊んでいる児童や校舎から離れて身を守る行動をとったり、廊下にいる児童は周りを確認しながら身を低くしたりするなど、その時々状況を考えて行動する姿が見られた。



Ⅲ 取組を通じた成果（○）と課題（・）

- 防災マニュアルや、合同避難訓練と引き渡し訓練の経路などの見直しと変更を行い、より安全で実際の災害時を想定したものとなった。
- 合同引き渡し訓練には、本校学区の町内会長が来校し、訓練の様子を共有すると共に、情報交換や意見交換が活発に行われた。
- 全校授業研で防災学習を提供し合い、「児童が自分事として捉えさせることの重要性」「地域の災害特性に向き合うこと」などを改めて確認することができた。
- カリキュラム・マネジメントを行い、生活科及び総合的な学習の時間に防災教育を位置付け、各学年で様々な実践・提案授業を実施した。
- 12月の防災発表会に向けて発表の準備をしていく中で、授業で行った防災のことから自分事としてまとめられており、防災意識の高まりを感じることができた。
 - ・今年度学校防災アドバイザーからいただいたご指導の下、防災教育及び防災組織の継続に力を入れ、持続可能な方法で更なる向上を目指す必要がある（保護者身分確認、引き渡し方法等）。
 - ・利府支援学校富谷校との避難訓練共同実施を通して、富谷校のお迎えの車と本校児童の引き渡し後の徒歩下校時に交錯する部分があり、課題となった。災害時にはもっと混乱が予想されることから、下校コースの再構築や交錯することへの理解と安全面での協力を呼び掛け続けていく。
 - ・今年度中止になった富谷市総合防災訓練については、今後の継続した取組に向けて学校と地区が連携を深め、地域の防災活動の協力体制を求めていく。
 - ・令和7年度は、中学校区5校プラス松陵支援学校富谷校の6校で避難訓練を実施する予定なので、誘導体制の構築を目指す。訓練を通して各学校の強みや課題を共有し、より効果的な防災対策を検討していく。